

金 融 市 場 動 向

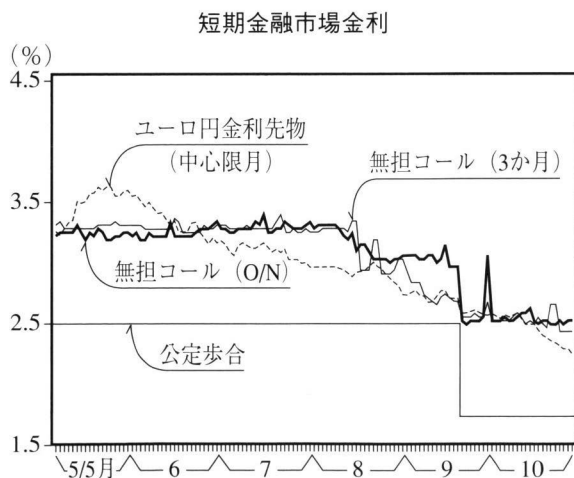
—平成5年10月—

(平成5年11月12日)

1. 短期金融市場

10月中の無担コールオーバーナイト・レートは、概ね横ばいで推移した一方、ターム物レート、ユーロ円金利先物（金利ベース）は、下旬にかけて若干低下した（なお、ユーロ円金利先物は月初に限月交替＜中心限月6年6月限→9月限＞）。

コール・プロパー手形市場資金平均残高は44兆4,479億円と、前月（44兆5,073億円）とほぼ同水準となった。



2. 資本市場

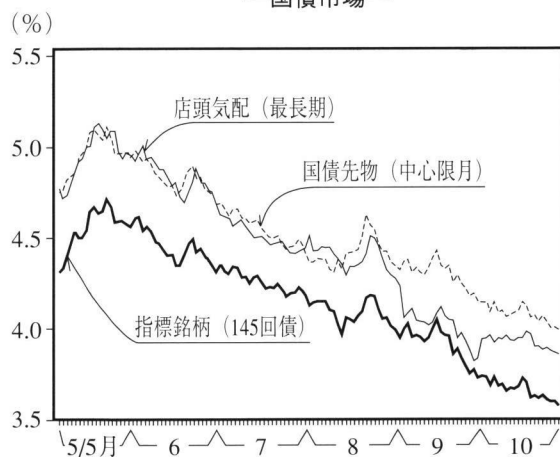
10月の国債利回り（145回債）は、公定歩合引き下げ（9月21日）後も月中を通じて低下し、3.575%と昭和62年6月23日（3.480%）以来の水準（前月末3.730%）で越月した（国債先物中心限月3.988%＜前月末

4.149%＞）。

国債の出来高をみると、現物（店頭取引）、先物ともに前月を下回った。

既発債市場利回り

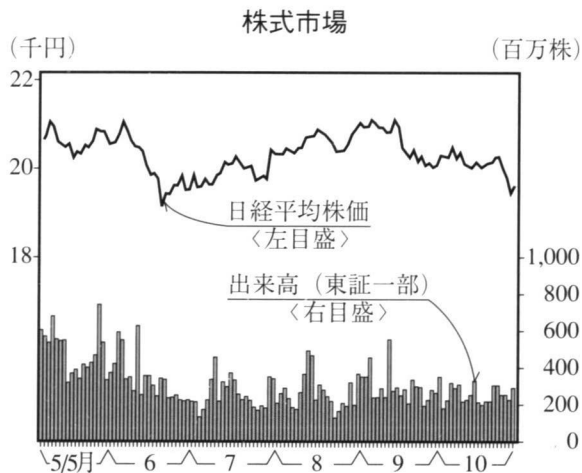
—国債市場—



株式市況（日経平均株価）は、横ばい圏内で推移したものの、月末にかけて企業収益不芳観測等を背景に低下し、19,702円（前月末比△403円）で越月した。

また、株式出来高（東証第一部月中1営業日平均）は、2.66億株と前月（3.07億株）を下回った。

起債動向をみると、長期国債（11月債、10年＜価格競争入札分＞）は、クーポン・レートが前月債比0.2%引き下げられたものの、債券相場が引き続き堅調に推移するとの見方が強いなか、好調な入札となった（10月27日入札分：募入平均利回り3.777%、応募



倍率4.73倍）ほか、短期国債についても、概ね順調な入札結果となった（10月6日入札分＜6か月もの＞：募入平均利回り2.412%、応募倍率2.30倍）。また、超長期国債についても入札が行われ、クーポン・レートが前回債（5年7月）比0.6%引き下げられ、過去最低水準の4.7%に設定されたものの、順調な入札となった（10月5日入札分：募入平均利回り4.656%、応募倍率3.64倍）。

国内公募普通社債の発行をみると、起債が集中した前月を大きく下回った（9月5,950億円→10月1,650億円）。

国内エクイティ市場での発行（10月払込み分、増資は除く）は、前月を下回った（9月1,135億円→10月445億円）。

3. 外国為替市場

10月の円相場（対米ドル直物相場、終値）は、日米の景気局面のすれ違いが市場で意識され出したこと等を背景に軟調に推移し、108.23円で越月した（前月末105.10円）。また、

円の対マルク相場（ニューヨーク市場、終値）は、独政策金利引き下げ（21日発表）等を背景に下旬以降上昇し、64.39円で越月した（前月末65.05円）。

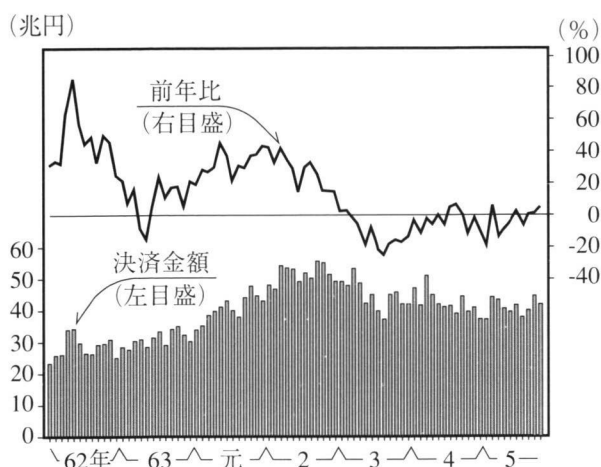
なお、東京外国為替市場の出来高（円対米ドル、直物および先物・スワップ計、1営業日平均）は147.9億ドルと、前月（171.7億ドル）を下回った。



4. 決 済

10月の資金決済の金額（1営業日平均）をみると、全銀システム取扱高、外為円決済交換高、日本銀行当座預金受払額はそれぞれ前年同月を上回った（全銀システム：前年比+19.2%、外為円決済：同+4.5%、日本銀行当座預金受払：同+11.5%）が、手形交換高（東京）は、前年同月を下回った（手形交換：前年比△3.1%）。また、国債の決済金額（1営業日平均）は、移転登録、振込口座振替ともに前年同月を上回った（移転登録：前年比+54.6%、振込口座振替：同+23.2%）。

決済金額



(注) 1. 1営業日平均。

2. 手形交換高(東京)、全銀システム取扱高、
外為円決済交換高の合計額。

5. 資金需給、金融調節

10月の資金需給をみると、銀行券要因が6,905億円の不足(前年同月2,746億円の不足)となったほか、財政等要因も、運用部の受け入れに加え、国債も発行超となったため、1,093億円の不足(前年同月2兆2,500億円の余剰)となり、全体でも7,998億円の不足(前年同月1兆9,754億円の余剰)となった。

こうした状況下、日本銀行は手形買入れ等により資金を供給した。

11月の資金需給(国債発行織り込み前)をうかがうと、銀行券要因については、4,000億円程度の不足(前年同月5,179億円の不足)となる見通しである一方、財政等要因は、交付金等の支払いがかさむことから、5兆100億円程度の余剰(前年同月4兆7,247億円の余剰)となる見通し。この結果、全体では4兆6,100億円程度の資金余剰(前年同月4兆2,068億円の余剰)と予想される。

6. マネーサプライ、銀行券、預金・貸出

9月のマネーサプライをみると、 $M_2 + CD$ 平残前年比伸び率は+2.0%と前月に比べ0.3%ポイント上昇した。これは、民間企業による資本市場からのネット資金調達増等を反映したものとみられる。通貨種類別にみると、準通貨の伸び率が上昇した。また、広義流動性の平残前年比伸び率は+3.3%と前月比0.3%ポイント上昇した。

10月の銀行券平残前年比は+4.5%と前月比上昇した。

10月中の金融機関の預金・貸出動向をみると、預金平残(実質預金+CD、都銀、地銀、地銀Ⅱ)前年比は、CD発行増等から+1.4%と前月比大幅上昇した。また、貸出平残(都銀、長信、信託、地銀、地銀Ⅱ)前年比は、+0.8%とほぼ横ばい圏内での推移となった。

7. 貸出・預金金利

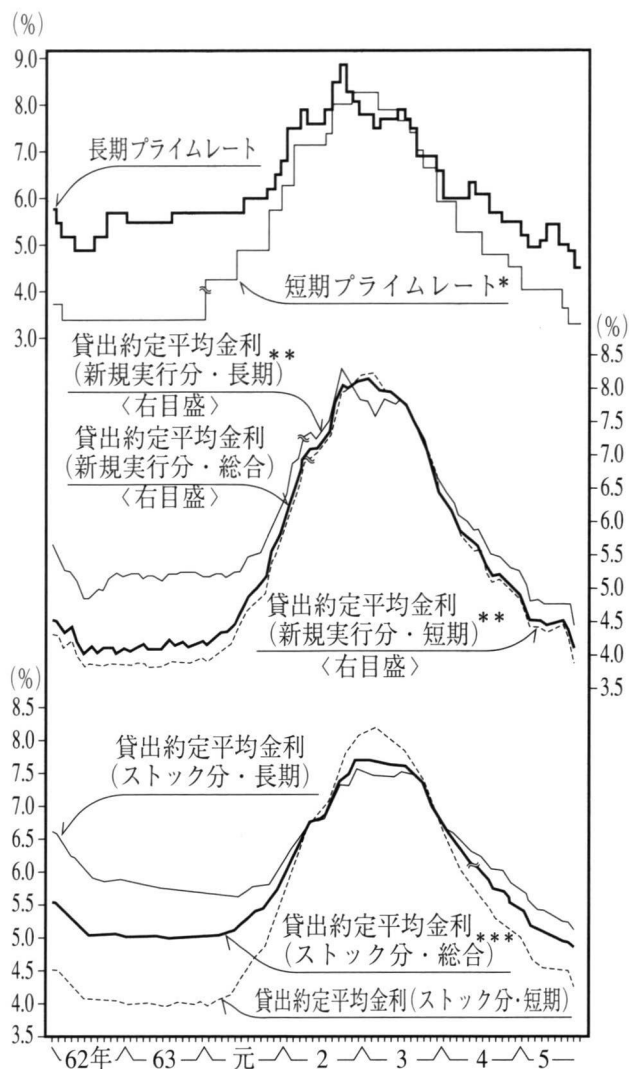
9月中の貸出約定平均金利(全国銀行)をみると、新規実行分については、短期が8、9月の短期プライムレート引き下げ(都長銀の場合、8月31日4.0%→3.75%、9月30日3.75%→3.375%)等から低下したほか、長期も長期プライムレート引き下げ(1日、5.0%→4.8%)等から低下した(短期：前月比△0.370%、長期：同△0.355%)。この結果、総合でも前月比△0.346%低下し(8月4.387%→9月4.041%)、6年3か月ぶりに既往ボトム(62年6月、4.166%)を更新した。

また、ストック分についても、短期、長期、当座貸越ともに引き続き低下し(短期：前月比

△0.167%、長期：同△0.109%、当座貸越：同△0.141%）、総合でも前月比△0.139%低下し、3か月連続で既往ボトムを更新した（総合：8月4.975%→9月4.836%）。

この間、9月の定期預金金利（自由金利分、3か月以上6か月未満の全銀受入金利平均）は、前月比低下した（8月2.764%→9月2.411%）。

貸出金利（全国銀行）



(注)* 元年1月以降は都市銀行のなかで最も多くの数の銀行が採用した金利。

** 2年4月以降は地方銀行Ⅱを含む。

*** 4年4月以降は当座貸越を含む。

(調査統計局)